

第11組「解放運動推進学習会」ご案内【公開】

下記のとおり解放運動推進学習会を公開講座として開催いたします。

今年度はハンセン病問題を学習します。ハンセン病とは「らい菌」による感染症です。感染力が弱く、治療も可能なケースが少なからずあった病気でした。しかし差別偏見が根強く続き、治療法が確立した後も多くの回復者の方々が故郷に帰れず療養所で生涯を終えています。私たちの先達である大谷派僧侶は療養所で「皆さんが静かにここにおられることが、そのままたくさんの人を助けることになり、国家のためとなります」と布教を行い、大谷派教団は1996年に「無批判に国家政策に追従し、隔離という政策徹底に大きな役目を担った」として謝罪声明を出しました。

重監房資料館主任学芸員の北原誠さんを講師に招き、改めて「ハンセン病とはどういう病気なのか」、「どのような歴史があるのか」、「今の私たちにとってどのような課題なのか」、基礎的な学習を行います。初めて教区解放運動推進協議会の協力を得て開催いたします。多数のご参加をお待ちしております。合掌

言己



講師 北原誠さん

日時 12月4日(月) 午後2時～4時

会場 富山市水橋小出52 玉永寺

講題 我が国におけるハンセン病対策の歴史と現状

—ハンセン病対策の歴史を正しく理解するために—

重監房資料館主任学芸員。1955年長野県松本市で生まれる。九州学院大学で航空工学を学び、溶接加工会社や樹脂成形機械製造会社を経て国立病院の職員となる。1989年国立多摩研究所に配属されたのが、ハンセン病に関わるきっかけだった。その後、国立療養所栗生楽泉園、国立療養所多磨全生園を経て、2013年12月に同館学芸員となり、2014年8月から現職。重監房についての資料の収集や整理、展示企画などを手掛けている。

「重監房」とは、群馬県草津町にある国立療養所栗生楽泉園の敷地内にかつてあった、ハンセン病患者を対象とした懲罰用の建物で、正式名称を「特別病室」といいました。しかし、「病室」とは名ばかりで、実際には患者への治療は行われず、「患者を重罰に処すための監房」として使用されていました。

聴講は無料です。みなさまぜひご参加ください。

主催 真宗大谷派富山教区第11組

後援 真宗大谷派富山教区解放運動推進協議会